

なぜなに？ 国語

作・中野 守 (中野劇団)

登場人物

文子 (あやこ) おねえさん

何太夫 (なんだゆう) くん

先生

教育テレビ番組。

マスコットキャラクター人形の何太夫君が考え込んで
いる。そばに大学教授の先生がいる。

何太夫 「先生は食べられた。」

文子お姉さん登場。

何太夫 日本語って難しいなあ。

文子 どうしたの何太夫君？

何太夫 あ、文子お姉さん、日本語の助動詞って難しいね。

文子 そうね。日本人の中でもちゃんと使えてい
る人は少ないって言われてるわ。

何太夫 誰に？

文子 ええ？

何太夫 文子お姉さん。

文子 なあに？ 何太夫君。

何太夫 「先生は食べられた」という言葉だと「お食
べになった」という意味にも「食べること

ができた」という意味にも「誰かに食べら
れた」という意味にもなるよね。

文子 そうね。「れる」、「られる」という助動詞に

は四つ意味があったよね。受身、可能、尊敬
あとひとつは何だったかな？。

何太夫 …ねえ。

文子 …。

何太夫 「可能」の場合は「食べれる」って言った方
がわかりやすいのになあ。

文子 …。

何太夫 五段活用動詞、例えば「触る」なら、受身

尊敬なら「触られる」だけど、可能なら可
能動詞の「触れる」に変化するから意味が

判断しやすいよね。「ら抜き表現」は、可能
動詞の一種だと解釈して、恣意的に使って

る人もいると思うんだ。勿論文科省の立場
もあるから「ら抜き」が市民権を得るには

まだ時間がかかるだろうね。けど、「見られ
る」だと「裸を見られる」という受身も「お

金を渡せば見られる」という可能も同じ「見
られる」でややこしいし、その都度説明す

るのは非効率だよな。だからいずれはら抜
きの方が正しいとされる日が来るよ。

文子 うん、でもここでは現在正しい日本語を覚
えていこうね。それと、もう少し普通の例

えで説明…。

何太夫 文子お姉さん。文子お姉さん。

文子 なあに？ 何太夫君。

何太夫 食べさせるのをさせられるときは何て言え
ばいいの？

文子 以前やった使役の助動詞「せる・させる」ね。
例えばどんな状況かな。

何太夫 先生が魚を食べる。これをお姉さんが先生
にさせると何て文になるのかな？

文子 私が先生に魚を食べさせる。
うん。じゃあ、今のを僕がお姉さんにさせ
るとどうなるのかな？

文子 ええ？ 何太夫君が私に先生に魚を食べさ
せさせる。かな？

何太夫 文子お姉さんにとって僕が尊敬する立場
だったらどうなるのかな？

文子 私が何太夫君を？

何太夫 何太夫さまって言ってね。
何太夫様が私に先生に魚を食べさせさせら
れる。

何太夫 意味はそのまま先生にさせるのではなく
て、魚にさせると言いたいときはどうい
うのかな？

文子 そんな状況ってあまりないと思うわ。

何太夫 あるかもしれないよね。

先生 あるかも知れないね。

文子 何太夫君が。

何太夫 様で。
何太夫様が私に魚を先生に食べられさせさ

せられる。

何太夫
…。

文子 先週のおさらい。私は魚を食べたい。「たい」は何だったかな？

何太夫 さかな。

文子 「希望」の助動詞だね。これを先生が食べたいと思ってるように文を変えるとどうなるのかな？

何太夫 …。

文子 何太夫君？

何太夫 僕に聞いているの？

文子 …そうよ。

何太夫 私は先生が食べたい。

文子 そうじゃないよ。「先生」が思っているの。

何太夫 先生が文子お姉さんを食べたがる。

文子 じゃなくて魚をだけど、そうだね。一人称の場合は「たい」だけど、三人称の場合は「たがる」になるよね。

何太夫 じゃあ、同じ意味で魚が主語になったらどうなるの？

文子 魚が先生に食べたがる。

何太夫 魚が食べられたら思っている場合は？

文子 魚が先生に食べられたがる。

何太夫 「食べたがる」と「食べられたがる」はよく似ているけど意味が全く違うから間違えないようにしないとイケないね。

文子 でも、使う状況がないと思うわ。

何太夫、舌打ち。

文子 今、チツ（て言ったよね）。

何太夫 言っていないよ。

文子 これで殆どの助詞と助動詞を勉強したよね。

何太夫 うん。

文子 じゃあ、ゲームをしようか。

何太夫 じゃあ、王様ゲーム。僕が王様だよ。

文子 違うわ。助動詞を使ったゲームよ。そんな最初から王様が決まってるゲームはしないわ。どれだけ助動詞を覚えているか。

何太夫 わあ、面白そう。じゃあ僕見てるね。

文子 何太夫君も参加するのよ。私ひとりで行ったら寂しい人みたいになっちゃうわ。

何太夫 視聽率的にはそういうのもいいと…。

文子 はい。ここに、(ボードを用意) 九種類の助詞や助動詞の意味が書いてあります。基本、受身、希望、使役、嘆願、否定、可能、過去、様態。

携帯のメールチェックをする何太夫が目に入る文子。

文子 今から言う動詞にここに書いてある意味の助詞や助動詞をどんどんつけていってね。

何太夫 ようし、仕事だから頑張るぞ。

文子 えっと、じゃあ、何太夫君からね。お題は「笑

う」。

何太夫 「笑う」か。オッケー。

文子 受身。

何太夫 先生「笑われる」。

文子 どうして「先生」ってつけるの？

何太夫 面白いから。

文子 基本。

何太夫 先生「笑う」。

文子 使役、希望。

何太夫 先生「笑わせたい」。

文子 可能、否定。

何太夫 先生「笑えない」。

文子 受身、様態。

何太夫 先生「笑われそう」。

文子 否定、嘆願。

何太夫 先生「笑わないで」。

文子 使役、可能、否定、過去。

何太夫 えー？ 先生「笑わせられなかった」。

文子 すごーい。

何太夫 どんなもんじゃーい。

文子 「先生」ってつけると面白いね。

何太夫 じゃあ、交替。今度は文子お姉さんが答えさせられる番だよ。

文子 …わかった。私も「先生」ってつけていいかな。

何太夫 えー？ いいよ。途中からだんだん早くなくてくからね。

ボードを受け取る何太夫。

文子 じゃあ、私のお題は何かな?

何太夫 「行く」

文子 オッケー。

何太夫 可能、否定。

文子 先生、行けない。

何太夫 希望。

文子 先生、行きたい。

何太夫 使役、嘆願。

文子 先生、行かせて。

何太夫 様態。

文子 先生、行きそう。

どんどん早くなる何太夫。

何太夫 基本。

文子 先生、行…。

何太夫 基本。

文子 …。

何太夫 基本。

何太夫を睨む文子お姉さん。

文子 …。

何太夫 基本。…基本。…基本。…基本。基本、基

本基本基本基本。

間をためる何太夫。

何太夫 過去…。

文子 …。

何太夫 …。

文子 …。

先生 おやおや、何太夫君。いつにもまして悪い

顔になっているよね。今日もやっぱり最後

はセクハラでした。来週から多分新しい番

組が始まります。さようなら。

手を振る先生と何太夫。終わり。